



47都道府県をどう教えるか？

帝国書院 広報室



■ 社会科の研修会に呼ばれて

全国のさまざまな地域の社会科研究会からの依頼で、地図帳指導のノウハウについて先生方にお話しする機会が増えています。これは、新学習指導要領で地図に関わる学習内容が増えたことと無関係ではないでしょう。そのような研修会で、全国各地の先生方とお話ししていると、とくに「47都道府県の名称と位置の学習」（以下、47都道府県の学習）への注目度が高いことがわかります。すでに実際に取り組み始めている学校もたくさんあります。

しかしながら、「白地図に都道府県名を何度か書いて暗記させ、テストで確認する」という指導が中心となっていることもわかってきました。このような方法は、もちろん有効なのですが、これだけでは子どもたちも単純な繰り返しと感じてしまう恐れがあります。また、他の事象との結びつきがない暗記は、テスト前に一夜漬けで暗記した内容をテスト後にはすっかり忘れてしまうというように、知識が定着しにくい方法となってしまうのではないのでしょうか。

■ 計画的に学習を積み重ねる

では、どのように取り組めばよいのでしょうか。47都道府県の知識を確実なものにしていくためには、小学校卒業までの長期間で、計画的・継続的に取り組むことが重要であると考えます。

4年生の段階で47都道府県全てを覚えることを、学習指導要領は求めていないのです。学習指導要領の解説書では『47都道府県の名称と位置につい

ては各学年においても指導し、小学校修了までには確実に身に付け、活用できるようにする必要があります。』（小学校学習指導要領解説 社会編 p.44）となっています。指導時間という点でも、社会科の授業時間の中だけで指導し、身につけさせるということが、困難であることはいまでもありません。

確かに、早い段階でマスターできるほうがメリットはありますが、それができない子どもも大勢いるわけです。ですから、子どもたち個々人の力量にあわせて、段階を踏んで少しずつ身につけられるような息の長い指導と、指導の工夫が求められます。

■ 学習を効果的に進めるポイントは

47都道府県の学習を継続的に進めていくうえで重要なことは、子どもたちに単純な暗記を求めるのではなく、子どもたちが興味・関心を持てるような学習を加えていくことであると考えます。子どもたちに興味・関心を持たせて、効果的にそれらを身につけさせていくためのポイントを何点か挙げてみましょう。

①身のまわりにある情報を活かす

現在、子どもたちの身のまわりには、都道府県に関する情報が数多く出回っています。ニュースや新聞だけでなく、バラエティ番組の中でも都道府県・地域に関する情報が数多く取りあげられるようになってきました。

このようにメディアで取り上げられ、子どもたちも聞いたことがあるような情報を47都道府県の学習に結びつけていけば、子どもたちもそれほど

抵抗感なく学習を進めていくことができるでしょう。

②各都道府県のイメージを持たせる

機械的に名称と位置を覚えるのではなく、それぞれの都道府県の特徴あるものと一緒に理解していくと定着度は高くなります。

たとえば、本やインターネットから各県の『なんでもナンバーワン』などを見つけ出したり、地図帳を活用したりすることで、それぞれの都道府県のイメージ形成をはかることができます。地図帳では、各県でたくさん見つかる絵記号が手がかりになります。たとえば、青森県なら「りんご」や「にんにく」、岩手県なら三陸海岸の海産物、秋田県なら「桶樽」など木を活かした工芸品などがたくさん見つかるはず。そういうものに着目させていけば、それぞれの県のイメージをふくらませていくことができ、都道府県の知識を定着させることにつながっていくのです。子どもの身近にある地図帳を有効に活用すれば、47都道府県の学習を効果的に深められるのです。

③普段から地図帳を活用する

普段から地図帳を活用できるような態勢をとっておくことも、有効な方法です。さくいんを使つての地名探し遊びなど、普段から地図帳に接していると、そのなかで自然に47都道府県のおおよその位置を認知していくことができるからです。先生が意識して、子どもたちに地図帳を活用するようにしむけていくと、子どもたちも自然に地図帳に手が伸びるようになるでしょう。このような状態にもっていくと、都道府県名の学習にも大きなプラスになるでしょう。

■ 実際どのように取り組むか

では、具体的にどのように取り組んでいくのかという点については、これまでもこの冊子『子どもと地図』で、先生方の実践例をいくつか紹介してきましたので、それらが参考になるでしょう。

日々のニュースや、給食を活かした都道府県の学習は、継続的な取り組みが可能で、効果も高いのでオススメの方法です。

また、本誌5月号に同封しました「地図帳でとらえる47都道府県」では、地図帳を活用した47都道府県の授業例を紹介しました（上記冊子類のバックナンバーについては、弊社ホームページで閲覧可能です）。

さらに、弊社のホームページでもいくつか教材を用意していますので、それらも活用できるでしょう。とくに、先生方から高い評価をいただいているのが『都道府県ポスターと紹介カード』です。これは、子どもたちがそれぞれの都道府県の有名なものを調べて紹介カードに書き、日本地図のポスターに貼っていくという教材です。シンプルな教材ではありますが、テーマを変えて繰り返しできること、学年ごとの指導内容や発達段階にあわせて活用できることなどがうけているようです。ぜひ一度ホームページでご覧いただければと思います。



『都道府県ポスターと紹介カード』

単なる繰り返しによる暗記だけでなく、地図帳の中から具体的な事象を読みとる活動を加えることで「子どもたちにとって有益で、かつ生活の中で生きる知識を根づかせるために取り組む」ことにつながると思います。子どもたちと一緒に楽しみながら、指導を進めていってほしいと願います。